

第26回年代測定総合研究センターシンポジウムを開催

●年代測定総合研究センター

年代測定総合研究センターは、1月28日(火)、29日(水)の両日、環境総合館レクチャーホールにおいて、第26回年代測定総合研究センターシンポジウムを開催しました。

同センターは、学内外を問わず、地球誕生から現代にいたる年代範囲をカバーする年代学研究、放射性炭素14トレーサーを用いる環境動態に関する共同研究に貢献してい



講演する増田教授

ます。

シンポジウムでは、同センターの年代測定設備に関する今年度の現状と利用の概観のあと、本学のほか、東北大学、北海道大学、愛知教育大学、龍谷大学、福岡大学、金城学院大学、産業総合研究所などの研究者や学生による共同利用の成果として、環境学、地質学、考古学、文化財科学、人類学などの分野に関する口頭発表、ポスター発表が行われました。

また、塚本敏夫元興寺文化財研究所研究部室長はエジプト西方砂漠ハルガオアシスにあるアル・ザヤーン神殿遺跡の保存調査について、西田 巖佐賀市教育委員会主査は、佐賀市内にある縄文時代の東名遺跡を中心に、縄文時代早期末の環境と文化について、外田智千国立極地研究所准教授はこれまで携わってきた南極の地質調査と岩石・鉱物試料のウラン-鉛年代測定の成果について講演を行いました。また、特別セッション「炭素14で見た古文書・古筆切の世界」において、増田 孝愛知文教大学長が古文書の真贋鑑定における料紙の年代測定に係わる諸問題について特別講演を行いました。

展示会「愛知医学校長 後藤新平」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、9月25日(水)から1月31日(金)までの間、展示会「愛知医学校長 後藤新平-『大風呂敷』と呼ばれた男の名古屋時代-」を開催しました。この催しは、弱冠24歳で名大医学部の前身である愛知医学校の校長となった後藤新平氏の足跡をたどったものです。

壮大な発想から「大風呂敷」と呼ばれた政治家 後藤新平



展示の様子

氏(1857-1929)は、岩手県に生まれ、福島県の須賀川医学校を卒業した医師であり明治9年、愛知県公立病院(医学部附属病院の前身)の3等医となり、その後、6カ国語に通じて語学の天才と言われた医師司馬凌海やオーストリア人医師ローレツらの指導を受け、衛生行政の専門家になっていきます。

展示会では、愛知県内の医師を組織した私立衛生会「愛衆社」の規則集、海水浴の医学的効果に注目し応用症や浴法を記した「大野海水浴法一斑」、後藤氏が考案した桃(疫病を駆逐)と蛤(火傷に効能)をあしらった卒業証書、愛知県公立病院及び医学校の平面図、後藤氏の若々しい写真など名古屋時代の資料を展示しました。また、主著『国家衛生原理』や、後年の官僚・政治家としての活躍を示す絵葉書、関東大震災後に内務大臣兼帝都復興院総裁として尽力した後藤氏の演説「帝都復興とは何ぞや」、テレビドラマ『大風呂敷』の脚本、さらに後藤氏の生涯と現代に繋がる功績を紹介したテレビ番組のDVDは館内で視聴でき、多彩な展示品は多くの来館者の関心を集めました。